

令和6年度第2回
大阪府市公立大学法人大阪評価委員会
議事要旨

- 1 日時 令和6年7月8日（月）午後2時～
- 2 場所 大阪市役所本庁舎 屋上（P1）階 会議室
- 3 出席委員 （会場出席）浅田委員長、青木委員、網代委員、海崎委員、中島委員、
水谷委員
（WEB出席）横山委員

4 議事概要

（1） 公立大学法人大阪令和5事業年度の業務実績に関する評価について

- ・ 事務局から資料1－1から1－3に基づき、公立大学法人大阪の業務実績に関する評価、審議スケジュール、各年度終了時における業務実績評価実施要領について説明があった。
- ・ 法人から、資料1－4から1－6に基づき、令和5事業年度業務実績とその自己評価について報告があった。
- ・ 事務局から資料1－7から1－8に基づき、事前の委員からの質問や意見を踏まえた各項目の論点に関する説明があった。
- ・ 説明をふまえ、法人との質疑応答、小項目評価についての審議が行われた。

<主な意見>

○ 「大阪公立大学」に関する小項目審議について

- ・ 「教職員の教育力向上」（NO.4）

（委員）実践的なFDができているという点で評価Ⅳを妥当とする。

本項目に関連する項目として、府立大学、市立大学で同様の事項となっており、区別する必要があるのか。

（法人）FDに関しては区別する必要はないとの認識。学生は大学ごとに違うということ、入学時から違うカリキュラムで受けているので、違う部分あるが、FDについては教員全員が大阪公立大の教員なので、教員の教育改善という部分をサポートしていくようなものに関しては3大学一体で行っている。

- 「課外活動支援」(NO.7)

(委員) アウトプットの数値が上がるとともに、活動が定着しているとの観点から評価Ⅳを妥当とする。
- 「キャリア支援」(NO.8)

※関連する項目：「(府大) キャリア支援」(NO.41)、「(市大) キャリア支援」(NO.43)

(委員) この項目に関連する項目が府大・市大にもあり、就職率で言うと、府大・市大の学生が就職しているというタイミング。ただ、キャリア支援は就職する人だけじゃなくて、今は早い段階からキャリア支援をする時代になっているので、その部分でカウンセラーを増やして、相談件数が増えたという実績を書かれている。

「(府大) キャリア支援」(NO.41)、「(市大) キャリア支援」(NO.43) においてキャリア支援を、本当に丁寧にきめ細かく多様性も含め、コロナ禍でオンラインになって色々相談も増えているという事情を勘案し、柔軟に対応されていることを踏まえ、評価Ⅴを妥当とする。
- 「学生の健康支援」(NO.9)

※関連する項目：「(府大) 学生支援の充実」(NO.40)、「(市大) 学生支援の充実」(NO.42)

(委員) 学生の健康診断の受診率を上げるというか、その意識を高めるということも含めて、いろいろな仕組みを考えながら努力されている。数値だけでは見て取れない学校側の取組ってというのが、もう少し現れてきてもいいのではないかな。本項目に関連する項目として府立大学・市立大学で同様の項目を含む「(府大) 学生支援の充実」(NO.40)、「(市大) 学生支援の充実」(NO.42) で評価が違うので統一した方がよいと考える。

年度計画を着実に実施しているため、評価Ⅲを妥当とする。
- 「入学者選抜」(NO.11)

(委員) 戦略的な広報によって、マスコミにも取り上げられて、志願者数が2年連続日本一であること、それから2年連続増加しているというのは、ものすごいインパクトが大きいので、高く評価していいのではないかな。

評価委員会の評価として、評価Ⅴを妥当とする。

- 「研究力の強化」(NO.12)

(委員) 評価については評価Ⅴを妥当とする。大阪公立大学が研究大学として世界的水準を目指していることを理解しているが、研究成果の達成度とその水準がリンクしているかを確認したい。また、第2期中期計画でアウトカム指標の設定に取り組んでいるとのことなので、今後しっかりと設定していくことを期待している。
- 「大学の強みを生かした研究の推進」(NO.14)

(委員) 評価Ⅴを妥当とする。ただし、「研究推進体制の整備」(NO.13)、「大学の強みを活かした研究の推進」(NO.14)、「自己収入の確保」(NO.51)が関連しており、一連のものとしてみた方がよいのではないかと。

(法人) これらの項目が密接に関連しており、研究力強化や支援体制がそれぞれのアウトカム指標に反映されている。成果にはタイムラグがあるため評価が難しいが、新大学としての強みを活かし、研究ユニットやイノベーションアカデミーを通じて新たな取組を進めている。大学全体で包括的に取り組んでいる。

(委員) 計画番号が分かれており、それぞれ評価することとなっている。NO.14は評価Ⅴを妥当とする。
- 「都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能の整備」(NO.19)

(委員) 様々な事業に採択されたということは大きなこと、それを契機としてさらに進展されることかと思う。評価Ⅴを妥当とする。
- 「高度専門医療人の育成」(NO.24)

(委員) 評価Ⅱを妥当とする。危機対応能力育成プログラムへの参加がゼロであったことについて、対象医師やプログラムの柔軟性を考慮しつつ、アナウンスの遅れなどアプローチが不十分であったのではないかと。より効果的なアプローチが必要であり、来年度に向けた改善策の説明が必要ではないかと。

特定行為研修で看護師の参加者が目標より少なかったことについては、看護師の専門性発揮と医師のタスクシフトの重要性を強調し、現実的な事情を考慮した指標設定が必要であると考えます。

○ 「大阪公立大学工業高等専門学校」に関する小項目審議について

・ 「(高専) 高専教育の質の向上と検証」(NO.27)

(委員) 評価Ⅲを妥当とする。中期計画に大阪公立大学等と連携した教育の取組を進めるとあるが、年度計画が3つほどあるなかで、どれが中期計画に該当するのかがよくわからない。

(法人) 大阪公立大学との連携に関する取り組みは、特に DX マインドやスタートアップマインドの教育に重点を置いている。また、エネルギー(蓄電池)に関する産学共育プログラムについては、高専と大阪公立大学が共に参画している。このプログラムは、まず高専で整備し、その後大学との連携を深めることを目指している。これらの取組を通じて、大学との連携を強化し、教育の質を向上させることを目指している。

2027 年度の校舎移転に伴い、連携について、より詳細な記載を考えたい。

・ 「社会・産業ニーズに対応する教育と内部質保証」(NO.29)

(委員) 企業アンケートの分析では、約 10%の卒業生が企業での水準に達していないことが判明し、これは在校生の困難を抱える割合と近い数字である。この課題に対してどのように対応するのか、また、卒業生や在校生の分析から英語能力が不十分であるという指摘をどのように改善に活かすのか、検討していることがあれば教えてほしい。

(法人) アンケートの結果も踏まえ、学校では日常の授業や学校生活でのスケジュール管理の指導やコミュニケーション能力の向上にも努めている。また、英語能力の向上に向けては、TOEIC 受講支援や CALL 教室でオンライン教材システムを導入し、学内での学習を支援している。今後もグローバルな能力の強化を続けていく予定。

(委員) 評価については、評価Ⅲを妥当とする。

○ 「財務内容の改善」に関する小項目審議について

・ 「業務の効率化及び適正化」(NO.52)

(委員) 指標は客観的なものではないということだが、今後、評価する上で、どの程度、運営が効率的になされているのか、何がボトルネックになっているのかを客観的に把握することが重要だと思う。評価については、評価Ⅲを妥当とする。

- 「自己点検・評価および当該状況に係る情報の提供」に関する小項目審議について
 - ・ 「戦略的広報」(NO.55)
(委員)非常に活発に発信されており、成果もでているので評価Ⅴを妥当とする。
- 「その他業務運営」に関する小項目審議について
 - ・ 「良好な教育研究環境の維持および有効利用」(NO.57)
(委員)マスタープランの検討を進めており、前向きに進めているが、年度計画の達成かといわれると、そこまで至っていないということで、評価Ⅱを妥当とする。

以上